



現在の五線譜のルーツともいわれる「譜線ネウマ譜」。中世10～11世紀頃、旋律の抑揚を記すネウマという記号に横線（譜線）を添え、音程関係を明確にする試みが行なわれた。この写真は13世紀スペインの「5線ネウマ譜」でクリスマスのためのミサ聖歌が記されている。（ニューヨーク、スペイン協会蔵）音楽之友社「楽譜の歴史」より

人は、感動を伝えたい。

奏でられたそばから消えていく音の芸術を、見えるものとして記録し、広く永遠に伝えたい。人は、そんな思いを楽譜というドキュメントに託してきました。楽譜が音楽の感動を扱げたように、ひとりのアイデアや考えをドキュメントにより、時を超え空間を超え、みんなのものへと扱げたい。富士ゼロックスは、そんなオープンなオフィス環境をめざしています。